



ほんわ館だより

令和8年2月 発行
第161号

中山町立図書館
開館 10:00~19:00
休館日 2/2.9.16.24



2月の展示コーナー



★おすすめコーナー 『入園・入学』

★児童書コーナー

- ・絵本コーナー 『かざろう！おひなさま』
『ぽかぽかしちゃうぞ』
- ・円形コーナー 『へんてこな生き物』
- ・空中図書コーナー 『日本のおはなし』
- ・小学生おすすめコーナー 『生きもの』

★2階掲示板

『本の中の動物たち』



★今月のおはなし会★

2月21日(土)

11:00~11:30

場所: ほんわ館 多目的室



『春のガーデニング講座~寄せ植え~』 を開催します

日時: 2026年3月8日(日)
14:00~15:30

★会場: ほんわ館 多目的室

★講師: 出羽園

★受講料: 1500円(材料費を含む)

★募集定員: 12名(先着順)

★申込み: 2月15日(日)より 図書館カウンターでの先着順になります



★受講料は当日お支払いください



新着 最近入った本を紹介します

※ここに紹介した他にも
たくさん入っています

【児童書(えほん)】



◀『あたらしい
かぞく』
きむらゆういち // 作
あべ弘士 // 絵
講談社



◀『10かいだての
まほうつかいの
おしろ』
のはな はるか
// 作 絵
PHP研究所



◀『冬にやってきた春と
夏と秋』
ジョナサン フリードランド // 文
エミリー サットン // 絵
さくま ゆみこ // 訳
徳間書店

【文芸書】書名	編著者名	【児童書】書名	編著者名
Spring -another season-	恩田 陸 // 著	じごく小学校	有田 奈央 // 作
武家女人記	砂原 浩太朗 // 著	トイレが楽しくなるうんちのひみつ	さいとうあづみ // 文と絵
グロリアソサエテ	朝井 まかて // 著	名探偵コナン&理科探偵団	青山 剛昌 // 原作
筒井康隆自伝	筒井 康隆 // 著	こども栄養学	中西 明美 // 監修
曾根崎心中	角田 光代 // 著	捨てられないずかん	米田 まりな // 著
メゾン美甘食堂	水生 大海 // 著	【教養書】書名	
不埒なり利家 -豊臣天下事件帖-	谷津 矢車 // 著	素人校長バタバタ日記	川田 公長 // 著
カフェーの帰り道	鳴津 輝 // 著	中年に飽きた夜は	益田 ミリ // 著
白鶯立つ	住田 祐 // 著	君といっしょに	まなつ & まふゆ // 著
女王様の電話番	渡辺 優 // 著	もう一度、人生やり直す！	ひすい こたろう // 著
神都の証人	大門 剛明 // 著	食べた後どうなっているのか図鑑	アイナ ベースタル // 絵
熟柿	佐藤 正午 // 著	和のなるほど図鑑	みつけ // 著
晴れの日の木馬たち	原田マハ // 著	勝負眼	藤田 晋 // 著
ハウスメイド	フリーダ・マクファデン // 著	「やりたいこと」はなくてもいい。	しづかみちこ // 著



本の歳時記



「914・エッセイの本棚から」

2月28日は「エッセイ記念日」。エッセイは、著者の視点を通した独自の世界観が描かれ、個性や人柄が出やすいところが小説とはまた違った魅力です。文章も比較的短めで読みやすく、書き手との対話を楽しむうちに共感したり価値感が広がる体験をすることもあるでしょう。

エッセイや隨筆の本は背ラベルが「914~」、背ラベルは本の住所を示していくほんわ館では入って右奥の棚がエッセイが並ぶ場所になります。時には「ほんわ館 914番地」に立ち寄ってみてはいかがでしょう。

『ベスト・エッセイ2025』

(914.6/ヘ/25 日本文藝家協会//編
光村図書)

浅田次郎、村上春樹、浅野忠信、穂村弘---、文筆家はもちろんのこと芸能・スポーツ界や研究者など各界で活躍する方々のエッセイを一冊で楽しめる。忘れえぬ人、うつくしい瞬間をそれぞれの言葉で切り取って余韻の残るエッセイ・アンソロジー。



『そして誰もゆとらなくなつた』

(914.6/ア 朝井リョウ//著 文藝春秋)

腹痛との戦い、はじめての催眠術体験、10年ぶりのダンスレッスン、引っ越しにまつわるあれこれ…。「頭をからっぽにして読めるエッセイ集」を目指して、小説ではできない遊び心満載のエピソード・エッセイ全20編を収録。



『わからない』

(914.6/キ
岸本佐知子//著
白水社)

名翻訳家/エッセイストが贈る、奇想天外、虚実の境をまたぎ越すエッセイ集。真面目に話しているかと思えばいつのまにか発見と妄想とが入り混じり、やがて目が醒めてスルリと現実に戻る… 岸本ワールドをお楽しみください。



『乳のごとき故郷』

(914.6/フ
藤沢周平//著
文藝春秋)

生まれ育った庄内のこと、子供時代の記憶、孟宗汁やしょっぱいシャケなど忘がたき味、そして人々への思いなど。小説と同じように決して声高にはならない作風がゆっくり心に染み入るエッセイ全48篇。



『霊長類ヒト科動物図鑑』

(914.6/ム
向田邦子//著
文藝春秋)

父も母も、不思議に皆いきいきとしていた台風の日の情景、何度も乗っても怖くて平静でいられない飛行機のこと…。人の滑稽さや哀しみそして愛おしさを引き出して、小気味よく着地する名エッセイの数々。



ほんわ館で読まれています

『暁星』

湊かなえ//著 双葉社



文部科学大臣で文壇の大御所作家の清水が、男に刺されて死亡した。逮捕された男は週刊誌に手記を発表しはじめる。そこには、清水が深く関わっているとされる新興宗教に対する恨みが綴られていて…。

『飼い犬に腹を噛まれる』

彬子女王//著 ほしよりこ//絵 PHP研究所



私は自他共に認める事件体質である。ささいなことから、めまいがするような大事件まで、日常的にいろいろ起こる…。彬子女王殿下の日常を綴った最新エッセイ集

『科学的に証明されたすごい習慣大百科』

堀田秀吾//著 SBクリエイティブ



勉強も貯金も、ダイエットも目標達成のカギは習慣化にあり。でも間違った習慣を身につけてしまったら…。世界中の心理学、行動経済学、脳科学などの研究をベースに「もっと楽く、自然に習慣化できる方法」を紹介。

『高宮麻綾の退職願』

城戸川りょう//著 文藝春秋



親会社・鶴丸食品に出向した高宮麻綾。新たなビジネスの立ち上げに奮闘するも、パワハラ疑惑をかけられ、早くも大ピンチ!さらに産業スパイが立ちはだかり…!? 「高宮麻綾の引継書」の続編。